重工業：鉄鋼

日清戦争で得た賠償金をもとに、軍備拡張のために、北九州（福岡県）に八幡製鉄所が建設され、鉄鋼需要の拡大に備えました。

1900年代には重工業が発達していった。

産業革命が進むと、企業の集中と独占が進み、三井、三菱、住友、安田などの大資本家が現れました。
これらの資本家は、一族の者が金融・貿易・鉱山などを分担的に経営する財閥となり、日本経済を支配する力をもった。

（岩崎弥太郎が三菱会社を設立し、海運業で利益を得た。
主要な鉄道を国有化した。）

鉱工業がさかんになると、排水や煙による被害も出るようになりました。栃木県の足尾銅山では、鉱毒が農産物などに被害を与える足尾銅山鉱毒事件が起こった。

↓

地元の衆議院議員田中正造は、住民の側にたって事件の早期解決を図るため、政府を相手に公害反対運動を起こした。